

教育理念（全文）

■アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

- 生きるために他人の手を必要とする人々を直接支える介護福祉士、作業療法士となって社会で活躍したいと思っている人。
- 常に笑顔と優しさをもって人に接することができるよう心がけている人。
- 人間愛に基づいた医療・福祉を実現するスペシャリストになる意欲がある人。

人はそれぞれ異なる背景をもって生きています。生活習慣、伝統、宗教、文化、歴史などの生活していく上での多様性に加えて、体格、性別、年齢、人柄など個人個人の生まれ持った個性もまた違いがあります。それらの違いに気づき、互いの存在に敬意を払い、その違いにこそ価値がある事を感じ取れる人と共に学んでいきたいと考えています。

- 介護福祉士、作業療法士という職への理解があり、自らもそれを志す気持ちを持っていること。
- カレッジスピリット「互いに愛し合いなさい」を理解しようとしていること。
- 異なる価値観や文化、性別などに偏見を持たず、様々な人々と良好な関係を築き、協働することができるようになろうとしていること。
- 他者の考え方や主張に耳を傾け、自分の考え方や意見を表現できるようになろうとしていること。

これらのことを学生生活をとおして教職員と共に学ぶことができるような学生を受け入れたいと考えています。

■カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

専門職に求められる能力・知識・技術においては、必要なレベルをクリアしながらそれらに裏付けられた実践力を持つのみならず、真に対象者に寄り添う人間性を備えた介護福祉士、作業療法士を養成するカリキュラム編成を行います。そこでは指定養成施設に求められる指定科目のみならず、専門職に必要とYMCAが考える独自科目についても大胆に取り入れながら、YMCAらしい教育課程の編成を行います。特にカレッジスピリットの「互いに愛し合いなさい」に表わされるキリスト教の精神を基本にしながら教育課程を編成します。

さらに多様な側面から人間理解をし、他者を受け入れていくことを学ぶ教育課程であるように努めます。本校の教育課程を通じて専門職に求められる資質が「みつきり」、他者と共に喜びや悲しみを分かち合う経験を重ねて「つながる」ことの大切さを理解してほしいと考えています。具体的な授業ではグループワークの手法を多用していきます。専門分野での学びを個人として積み重ねるだけでなく他者と共に学ぶことを大切にします。グループメンバーと課題を共有した際、他者の考え方や主張を受け止め、そのうえで自分の意見を適切な表現で他者に伝えることができ

るように経験を重ねてほしいと考えています。同時に、専門職として働くことになる現場での学びも大切にします。実習先との連携を大切に、学生一人一人の成長につながるような授業展開を実習指導者も巻き込みながら行います。

その上で地域とのつながりを大切に、地域に育てられる学生という姿を想定しながらもう一つの教育課程として積極的に地域資源を用いること、発見していくことを進めます。これらの教育課程を進めるために教職員の研鑽の機会を大切に、自己研鑽に努める姿もまた学生に対して良い刺激になってほしいと考えます。さらに教職員が謙虚に学ぶ姿勢が学生の生涯にわたる専門職人生における道標になってほしいと思っています。

■ディプロマポリシー（卒業単位認定・称号授与の方針）

アドミッションポリシーにより入学してきた学生たちが、カリキュラムポリシーに従って編成された教育課程を経て卒業していこうとしている際、本校で大切にしていることは次の通りです。

専門職として一人前の素養を身に着け、同時に社会人としては新米であることを自覚しながら現場に入っていく難しさを克服したい、とと思っていることを応援したいと思います。

自らが専門職として成長し、一人前になろうとすればするほど到達すべきポイントが向こうに逃げていく、そういうことをしっかりと認識ができて自分の選んだ道はそういうものだということをリアルに理解できる人材を社会に送り出します。特に専門学校では専門分野の教育に多くの力が割かれますが、その後の人生では教養の大切さも理解しながら生きていける視野を持った卒業生であってほしいと思っています。

謙虚で、感謝を忘れず、他者の状況を自らのこととして実感を持って理解し、同時に社会の仕組みの中でいろいろな現実を正確に理解する力を持った学生を送り出します。

そのように育てられた卒業生は、様々な対象者や同僚に出会った際に「誰も取り残さない」姿勢を失うことなく働くことができますし、「互いに愛し合いなさい」の聖句にも沿った働きができることとなります。

YMCAの卒業生の働き場が広がることによってこの地域社会がさらに「よくなっていく」こととなります。同時に卒業生自身の人生も「よくなっていく」こととなります。私たちはそういう卒業生を送り出します。